

■日時 8月12日(木) ■天候 くもり 天理高校 対 東京都立飛鳥高校
 ■球場 明治神宮野球場 第1試合 決勝戦 ■試合時間 1時間53分 ■備考 中断9分(怪我)
 ■審判 球審:家田 塁審:福田 並木 渡辺登

出場校名	代表地区	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
飛鳥	東京1	0	0	0	0	0	0	0	0	3	3	4	3
天理	近畿・奈良	1	2	4	0	2	0	0	0	X	9	9	3

飛鳥		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	二	吉田 拳士	2	0	0	0	四球		四球			三ゴ		遊ゴ				
2	中	池田 陸	4	1	1	0	三振		三振			三振			中安			
3	投	上出 延寿	4	0	0	0	中飛		捕邪			遊ゴ			遊ゴ			
4	三	日座 保久	2	1	2	0	打妨			遊安			右3		死球			
5	右	野口 聖人	3	1	1	0	右飛			遊併			四球		左安			
6	捕	小林 仁	4	0	0	0		三振		三振			遊併		三振			
7	一	久山 功資	4	0	0	1		投ゴ			遊ゴ		三振		三選			
8	左	島 敬雄	4	0	0	1		三振			遊ゴ				三失	遊失		
9	遊	白井 拓哉	4	0	0	0			三振		遊ゴ				三併	投ゴ		
合計			31	3	4	2	残塁:6		併殺:3									

備考

■バッテリー

投手
上出 延寿

捕手
小林 仁

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
上出 延寿	8	40	9	0	8	5

天理		氏名	打	得	安	点	1	2	3	4	5	6	7	8	9	計	安	失
1	右	辻 徳治	2	2	1	1	四球	死球	投安		中犠			二ゴ				
2	三	福澤 亮介	3	0	1	2	捕犠	投ゴ	二安		投ゴ							
2	打	福田 智之	1	0	0	0								遊ゴ				
2		仁上 亮	0	0	0	0												
3	捕	安岡 裕人	5	0	1	0	遊ゴ	投ゴ	二飛			二ゴ		遊安				
4	投	中村 陽平	5	1	2	0	遊安		右2	三ゴ		三飛		中飛				
5	二	榎谷 輝	1	1	0	0	四球	死球	投飛			四球						
6	一	倉本 侑治	2	0	0	0	四球		投犠	一ゴ		中飛						
7	中	丸田 泰之	2	1	1	0	投飛		四球		左安		死球					
8	左	橋本 幸司	4	2	1	2		遊飛	中安		二ゴ		捕飛					
9	遊	西井 旬進	4	2	2	1		中安	左飛		左3		二飛					
9		栃原 由知	0	0	0	0												
合計			29	9	9	6	残塁:7		併殺:0									

備考

■バッテリー

投手
中村 陽平
橋本 幸司

捕手
安岡 裕人

■投手成績

氏名	回数	打者	安打	三振	四球	自責
中村 陽平	7	25	2	7	3	0
橋本 幸司	2	11	2	1	1	2

■戦評

第57回大会の決勝戦は大会史上初となる四連覇をかけた天理と初優勝を目指す飛鳥との対戦になった。飛鳥は1回戦から全試合完投のエース上出が先発。天理は昨年からの出場経験のある3年の中村が先発。1回表飛鳥の攻撃。先頭の吉田に対し初球いきなりmax139km/hの快速球を投げ込み試合開始。四球と打撃妨害で二死一・二塁と先制のチャンスを得るが後続を打ち取られ無得点に終わる。その裏天理は五連投ですぐに疲れの見える上出から先頭の辻が四球を選びすかさず二盗に成功。2番福澤が確実に三塁に送り3番安岡の打席でパスボールにより難なく先制点を上げる。なおも内野安打と二つの四球で二死満塁と攻め立てるがここは上出が踏ん張り後続を絶つ。2回裏には安打と死球で一死一・二塁から重盗を敢行。これが捕手の三塁悪送球を誘い1点追加。2番福澤の内野ゴロの間に辻が判断良く本塁を突きもう1点追加して3-0とリードを広げる。3回裏には4番中村の二塁打と四死球で一死満塁とし8番橋本が前進守備の二塁後方に落ちる適時打で二人生還。なおも敵失につけ込み2点追加して7-0。5回裏にも二本の安打と犠飛で2点追加し9-0と大きくリードを広げる。反撃を試みたい飛鳥だが天理先発中村の低めに投げ込まれる速球に内野ゴロの山を築くばかり。7回表この回先頭の日座が右中間を深々と破る三塁打を放ち4番の意地を見せる。5番野口が四球を選び無死一・三塁と久しぶりに得点のチャンスを得るが後続が併殺に倒れ無得点に終わる。天理ベンチは8回から4年のエースナンバー橋本をマウンドに送り逃げ切りを図る。9回表飛鳥は二本の安打と死球で一死満塁とし二死後、パスボール、野選、敵失で3点を奪うも反撃はここまで。9-3で天理が飛鳥を下し、大会史上初の4年連続、7回目の優勝を飾った。